

令和6年度 第3回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

1. 日 時

令和7年2月27日（木）18：30～20：15

2. 場 所

桐生市役所本庁舎3階特別会議室

3. 出席者

（1）委 員（10人）

会 長：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長〕
委 員：西薊 大実〔群馬大学共同教育学部 名誉教授〕
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕
小島 由美〔未来創生塾 副塾長〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長〕
〔欠席者〕根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕
藤生 五郎〔桐生商工会議所 副会頭〕
茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕
高橋 尚彦〔新田みどり農業協同組合 常務理事〕

（2）事務局（4人）

森下 SDGs推進課長
金子 ゆっくりズムのまち桐生推進担当係長
高橋 主任
今泉 主事

4. 議 題

桐生市環境先進都市将来構想の改定について

令和7年1月16日から2月14日まで実施したパブリックコメントの内容を踏まえた桐生市環境先進都市将来構想改定(案)を報告した。また、啓発に向けた取り組みとし、桐生市環境先進都市将来構想概要版(案)の内容について意見聴取をおこなった。

5. 委員意見（質疑応答）

【議題 桐生市環境先進都市将来構想の改定について】

【会長】

温室効果ガス排出量を 2030 年度までに 2013 年度比で 46%削減することについて市はどのようなシナリオで進めていくのか。

【事務局】

目標については、厳しい値であるが、国の示した目標値となるため、この値以下での設定は難しいと考える。国と足並みをそろえた形で推し進めていく。また、行政だけでは目標を達成できないため、市民の協力を必要とする。

【委員】

各地方自治体は国の示した目標値を基に、地球温暖化対策実行計画を策定している。2021 年に菅首相がカーボンニュートラルを宣言し、2030 年度までに 2013 年度比で 46%削減することが決まった。日本の NDC（国が決定する貢献）に明記された温室効果ガス 46%削減の根拠について、EU を中心とした世界各国の NDC は「気候変動に関する国際連合枠組条約」が基準年とする 1990 年を採用し、40%削減することを主に採用している。日本は、2011 年の東日本大震災の影響により、エネルギー比率が変化したため、2013 年を基準年とした。そのため、諸外国との基準年の差を埋める計算をした結果が 46%の削減率となる。

実際どのように進めていくかはどこの自治体も頭を悩ませている状況である。部門別では特に家庭部門から排出されるものを 66%削減することが大きいと、市民向けに概要版を作成することが良いと思う。

市町村レベルでは盛り込まれていないが、国・県では森林吸収の部門の数値も計画に含まれている。桐生は森林が市域の 7 割を占めていることから、吸収量の計算をすれば温室効果ガス排出量をマイナスにすることができると思う。また、国では工場の煙突などから排出される二酸化炭素を CCS（カーボン・キャプチャー・ストレージ）といった先進技術で地中に閉じ込める実証実験も実施されており、今後が期待されている。

国では温室効果ガスの排出量を算定する部署がある。「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、7 物質を算定対象としている。その内、フロン 4 物質は排出量が少ない状況にある。メタンの排出は農業関係からの排出が多く、また、永久凍土の溶解から発生することが懸念されており、人力で抑えることは難しい領域と考える。温室効果ガス排出量の多くは CO2 であるため、この分野からの削減を主に実施している。

先般閣議決定された第 7 次エネルギー基本計画において、2040 年に向けてエネルギーのバランスを変えていくことが明記された。具体的には、再生可能エネルギー発電の比率を 4~5 割に増加すること。化石燃料由来の発電は、ガスを主軸とし、石炭火力をなくしていくこと。また、原子力発電の再稼働を進めていくこと。これらの取り組みにより、電力からの温室効果ガス排出量が必然的に減少する。そのため、これまでと同じ生活をしていても 7 割は削減されることになる。そのようなことから、一自治体にできることには限界があると思う。

ただし、これらの構造を市民に知らせても有益なことはないと思う。桐生に有益なものは、再生可能エネルギーの活用であると思う。排出係数の少ない再生可能エネルギーを利用する

ことが、環境先進都市のもともとの考え方であった。同じ生活をしていても CO2 は増えないが、一方では省エネに力を入れることも重要と考える。

桐生市では交通体系の見直しが必要だと感じている。これまでに、街中の交通を自動車ではなく、スローモビリティを使う取り組みを進めてきた。この取り組みは時代の流れに合致してきていると感じる。市民を巻き込んで取り組みを進めていくことが良いと思う。

温室効果ガスを 46%削減できるかどうかは、国のエネルギー基本計画の話であり、その数字を一自治体が重要視することはないと考える。

概要版(案)に「公共交通を利用する」と書かれていても、現状の便利な生活を手放すのは難しいと感じる人が多いと思う。具体的な生活のイメージがわからないと、実行に移すのは難しい。こうすることで我慢することなく楽しく生活できると思わせる内容を記載すると良いと思う。

都心では、車ではなく電動の小さな乗り物の方が利便性が高い。スローモビリティも良いが、電動キックボードや電動自転車などの方が利便性が高くニーズがある。

国外の例では、デンマーク、ベルギー、オランダ、ドイツなどの国々が自転車専用道を整備し、自転車やスローモビリティが専用道を走れるようにしている。日本でも道路交通法の改正により、標識の無い道路の制限速度が 30 キロになるようだ。これはある意味で自動車の利用を制限する方向にシフトしていると感じる。

EU では、二車線道路を一車線にしてスローモビリティが走れるようにしており、交差点の信号も自転車とスローモビリティが優先されている。自動車が使いにくくなる一方で、スローモビリティが使いやすくなるまちづくりを進めている。

行政がどこまで実行できるか、また、市民の応援がないと達成は難しいと考える。

【会長】

桐生がこれまで取り組んできた MAYU などのスローモビリティを活用した電動モビリティのまちにするのも良いと思う。市民の半分がナローモビリティに乗っていると意識が変わると思う。市の新庁舎駐車場にナローモビリティ専用の駐車場が整備されていると良いと感じる。

【委員】

移動の転換も重要であるが、私たちが使うものや使い方を変えることも大切である。具体的には、ナローモビリティを使うことでガソリン車よりもエネルギー効率が良くなるなどの例がある。

「こまめに灯りのスイッチを切ると省エネになる」とよく言われるが、大きな効果を期待するためには、使うエネルギーの種類を変えるなどのアプローチが必要である。つまり、やり方を変えることが重要となる。具体的な例として、住む家を変えたり、車を変えたりすると効果があると考える。

また、災害時における生活の持続性は、「ゆっくりズムのまち桐生」のテーマの一つとなる。このアプローチは地域経済の流出を防ぎ、豊かな町へとつながる付加価値をもたらすと思う。

概要版を用いた市民勉強会を開催するのも効果的であると感じる。

【会長】

ナローモビリティに変えるとガソリンがどれだけ減るか。リアルなデータがあると良いと思う。

【委員】

ナローモビリティとガソリン車と比較するとまだガソリン車の方に利便性を感じてしまうと思うが、一度乗ってみると考え方が変わると思う。電動モビリティが体感できる場があると良いと感じる。

また、家庭用の蓄電池補助は良いと思う。太陽光発電とセットでナローモビリティも絡めて使えば削減効果が期待できると思う。

【委員】

自家消費をすることで、地域から付加価値が流れにくくなることはとても良いと思う。

【副会長】

1 人の生活であれば環境に良い車や家を購入したり、太陽光パネルを載せることもできると思うが、子育て世帯など人数が多い世帯には取り組みが難しいこともあると感じる。

身近なことで自分にできることから実践することも大切である。将来的な取り組みも大事だが、すぐできる取り組みも載せると良いと思う。

【委員】

桐生は自動車を使いやすい環境にあると思う。都心では自動車を維持するために高額な駐車場代を払う必要があり、誰でも自動車が持てる環境ではないと感じる。都内の子育て世帯は、移動手段として電動アシスト自転車を利用している。人間の感覚として、その生活環境で価値観が左右されてしまうと思う。

【副会長】

桐生市民に取り組んでほしい内容と、都内の人の取り組み内容が必ずしも合致しない。その地域に合ったプランを提案した方が良いと思う。

【会長】

人それぞれの組み合わせによって変わってくると思う。まちなかにモデルとなるようなものがあるとわかりやすいと思う。

【委員】

住宅関係では、令和7年4月から省エネ基準に関する法律が厳しくなる。また、住宅業界でも2030年・2050年問題を抱えている。省エネ基準を満たすために、家の断熱性気密性を高め、生活にかかわる費用を落としていくこととなる。メリットとして、家の住宅性能が増すと、家中を24時間全館空調で管理することでエネルギー効率を良くすることができる。

太陽光発電設備などは、住宅メーカーによって無料で設置してもらえるところもある。費

用対効果の面では今現在は大きな効果は期待できない場合もあるが、防災の面においては、停電の時に電気が使えるなど大きなメリットとなる。

【会長】

今住んでいる家でできる省エネの取り組み効果と、将来新たに家を建て替えた場合の効果を示すと良いと思う。

【委員】

市内の森林整備について、森林組合では森林の皆伐を進めている。今現在植わっている杉の木は樹齢70年経っている。木を搬出していきたいが、木材の値段が安いことや、個人所有の山が多いことから進んでいかない。市の方に環境譲与税が年5千万円近くきているので活用した取り組みをして欲しい。

【委員】

植林した所など森林の統計データはあるのか。

【委員】

データは備えている。若い杉の木の方が温室効果ガスを吸収する。

【委員】

「もったいない精神」が重要と考える。ごみの分別をすることで資源をリサイクルすることができる。日本は資源が乏しい国なので、少しでもごみが資源になるような取り組みができると良いと思う。レジ袋の有料化も最近はなれてきていると思う。ごみステーションにリサイクルボックスなどがあると便利でありリサイクルが促進されると思う。

【会長】

ロケットストーブを使うようになってから、道端に落ちている木の枝も資源に思えるようになった。見方が変わると価値観も変わると思う。省エネの取り組みは、楽しみながら取り組むことが本来のゆっくりズムの精神であったと思う。

【委員】

森のことが概要版に書いてあると良いと思う。未来創生塾では次年度から森についてのカリキュラムを予定している。森と環境との接点が分かりにくいので、桐生市内の森林環境がどのような仕組みになっているか、梅田地区で森林の仕事に携わっている武井さんから話を伺っている。森林を生かして温室効果ガスの削減に寄与できるようにマネジメントを考える人が必要だと感じる。子どもたちの活動として、未来創生塾では地道に取り組んでいる。

概要版を作っても、一般市民の方が興味を持つかは疑問である。やったら良いとは思いますが、実際問題として難しいと感じる。緊急性もなく、自分が根詰めてやるとは思えない。危機感や災害に関する内容を分かりやすく示すと良いと思う。お得感がないと、つかみが難しいと

思う。意識の高い人にしか響かないと思う。

【委員】

大学の授業で、学生に説明する際に、理屈攻めではあまり聞いてもらえない。人に伝わりやすくするためには、情熱の部分がより伝わりやすい。情熱を感じる表現に変えると良いと思う。

【委員】

自分にとってのメリットとは何かを人は考えてしまう。桐生市では電動アシスト自転車や蓄電池の補助金を実施しているため、チラシの中に補助金の内容を盛り込むと良いと思う。

興味を引くきっかけをどれだけ出せるか。「公共交通を利用しましょう」ではなく、乗ることのメリットや楽しさが発信されていると興味を持てると思う。全ての人にとって良いものではなくて、興味をもってもらえると人に向けて発信すると良いきっかけをつくる啓蒙活動になると思う。

【委員】

概要版(案)に載っている内容はどこにでもあるものと同じ気がする。「省エネを意識する」から「薪ストーブを使ってみませんか」と提案する言葉にすると、インパクトがあり効果が期待できると思う。山の木を使うことで山の資源が利用され、豊かな生活ができるイメージができると思う。また、楽しい生活や省エネにつながる方法を載せていくと、人々の心をつかむと思う。

【事務局】

すべてのものを盛り込むことは難しいが、いろいろなアイデアを頂戴したので、当たり障りのないものではなく、インパクトのあるものなどにも幅を広げて周知していきたい。太陽光や蓄電池の話もあるが、家を建てる人は限られているため、今現在住んでいる家でもできることを考え、様々な立場の人や生活スタイルの人がいる中で、心に引っかかるようなものができると良いと考える。

【委員】

普及啓発活動について、自治会の集まりの中でこのような内容の啓蒙活動をしていくと効果があると思う。災害に強いまちづくりと絡めていくと良いと思う。

【委員】

桐生市として月に1回自動車を使わない日を設けると良いと思う。

【会長】

自治会を含めながら楽しい取り組みが仕掛けられると面白いと思う。

【委員】

ゆっくりズムの究極は壊乱（秩序を乱すこと）を受けないことであり、意識を醸成することが大切であると感じる。

自治会の活動も大切であるが、アースデイなどのイベントなどで意識を変える体験や展示ができると良いと思う。ただのお祭りにするのはもったいないと感じる。

【会長】

植林を通じて、木を1本植えることでCO₂がどれだけ減るのかを理解し、また、木を使って調理するなど一連の流れをパッケージ化できると面白いと思う。また、その取り組みをYouTubeで発信するなど、つながりのあるものが良いと思う。

【委員】

アースデイや植林など様々なテーマを1枚の紙に無理やりまとめるのではなく、テーマを1つに決めて1つの紙に書くと良いと思う。また、CO₂を減らすことをメインに書くのではなく、気持ちが楽しい方向に向くような内容を提案し、気が付かない間に電気使用量が減っていると感じるような誘導方法が良いと思う。また、その提案に対してのイベントを行うと効果的であると思う。これらのことを繰り返し、1年間実施すると協力者も出てくると思う。

私自身の活動で、梅田地区の古民家を購入しリフォームをした。今年5月に完成し、市などでも依頼があれば使えるように考えている。薪ストーブを使って遊んでもらえる場所を提供できればと考えている。

【委員】

毎月1テーマずつ書いていく「ゆっくりズムニュース」を作成するとおもしろいと思う。

【委員】

生ごみのコンポストを利用しているが、ごみの減る過程を見ることができ勉強になる。コンポストは、エコやSDGsの観点からも良いと思う。スウェーデンのライフスタイルセミナーに以前参加した際に、子どもの幼児教育の中で、土に還るものが何か調べる授業があり勉強になった。

【会長】

当協議会の活動について、年度ごとに目標を作り活動できれば良いと考える。毎年11月に「ゆっくりズムのまち桐生」フォーラムを開催しているので、取り組みを行う中で成果を発表できれば良いと考える。

【事務局】

現在の委員の任期は本年3月末をもって一区切りとなる。将来構想がここで改定され、改めて取り組みを進めていきたい。財政的には厳しいのでお金をかけない中でソフト事業を練りながら進めていきたいと考える。

6. その他

令和7年3月7日より開始する「SDGsパートナー登録制度」及び令和7年3月7日開催「SDGsパートナー登録制度説明会」についての案内を行った。

— 以上 —